

熊本地震から見つけた新たな支援 ～芦北高校福祉科、災害時高齢者支援講習を実施～

芦北高等学校

芦北高校福祉科は介護福祉士養成校として、高齢者介護や障がい者支援をはじめとした基本的な介護知識や技術を学習しています。介護福祉士養成校として認定されているため、卒業時には介護福祉士国家資格を取得することが可能です。

昨年4月、熊本地震が発生し、多くの県民が避難所での生活を余儀なくされました。1年がたった今、災害時の高齢者介護についての理解を深め、将来の介護福祉を担う者としての資質向上を目的として、平成29年10月10日（火）に日本赤十字社熊本支部から講師を招き、災害時高齢者支援講習を実施しました。被災した高齢者の避難所生活に焦点をあて、不安を軽減させ不自由な生活から高齢者を守るために必要な知識や技術を、講義や実技をとおして学びました。

前半は、災害時における高齢者介護の心構えを中心とした講義が行われました。講義では、災害が高齢者に及ぼす影響の代表的なものとして「生活不活発病」を紹介されました。これは、加齢や疾病に関連する症状として日頃から学習はしていましたが、災害時にも起こりうるものだと再認識できました。また、被災者を支援するにあたっては「自立支援の観点」が重要だということを知り、生徒たちは、日頃の介護実習と基本的な心構えは同じであることが確認できました。



災害時の心構えについての講義

講義の中で、講師の先生から、「炊き出しはボランティアが配ってまわるべきか、被災者に配膳場所まで取りに来てもらうべきか。」という問いかけがありました。生徒たちはそれぞれ、講習で話されたことや、今までの学習で学んだことをふまえて、自分の考えを述べていました。講師の先生からは、「自立支援の観点からは後者が重要である。一日中、畳一畳ほどのスペースで座ったり寝転んだりしている状況の中、立ち上がったたり移動したりする回数が減ることで、これまで歩くことができていた人が歩けなくなる生活不活発病を発症するリスクが増えるからだ。」という説明には、多くの生徒がこれまでの学習や介護実習での経験を基に納得でき、災害時のみならず、今後の介護の現場でも生かせるものであると実感できました。



高齢者の不安を和らげるリラックス法の演習

後半は、災害時の高齢者介護に役立つ様々な実技指導を受けました。まず初めに、高齢者の不安を和らげるリラックス法を学びました。避難生活が長くなるほど、高齢者の不安は大きくなっていきます。また、非常時であるがゆえに、自分から声を上げることもできず、辛さを我慢したり、不調を言いづらくなったりします。そのような時は、高齢者の横に行き、声をかけながら背中をゆっくり丁寧にさすると良いと教わり、その演習を行いました。手のひらで優しく肩甲骨周辺から上腕、背中全体に円を描きながらさすると、安心感が得られると共に血液循環もよくなり、さらには言葉掛けによりコミュニケーションが生まれ、心もほぐれてくるということです。生徒たちも、役割を交代して実践する中で、背中をさされることの心地よさやお互いのコミュニケーションから得られる安心感を実感でき、このリラックス法の効果を体感することができました。これは日常の介護の現場でも十分生かせると生徒たちも実感することができました。他にも、紙1枚でコップを作る方法や、すぐにできるホットタオルの作り方、さらに寒さを凌ぐ手立てとしてタオルケット1枚でガウンを作る方法も演習しました。



タオルケットでガウンをつくる演習

短い時間での講習でしたが、昨年の熊本地震で実際に対応された講師の先生の言葉は、生徒たちの心に深く残りました。そして改めて、日々の基本的な介護知識や技術の習得を丁寧にやっていかなければならないと実感できました。

今回の講習は、熊本地震の教訓をふまえ、本校福祉科で初めて企画したものでしたが、災害発生時にも高齢者に寄り添い適切な支援ができる人材の育成につながる有意義な機会となりました。生徒たちは、本校で「福祉の心」を培い、これからの福祉を担う人材として活躍してくれることを期待します。

<生徒の感想>

- ・高齢者や子どもが1人で不安を抱えていたら、まずは側にいることで支えることができると思った。
- ・肩や背中をさすりながらスキンシップをとることは、災害時や非常時だけでなく日頃の介護にも生かせると思いました。
- ・タオルケット1枚でガウンを作る方法はやってみると簡単でした。万一災害が起きたときには実践したいと思いました。
- ・ホットタオルの簡単な作り方ははじめ、災害発生時の心構えや対応などとても勉強になりました。

(文責 芦北高等学校)